

四研究会第4回役員会議事録

平成29年6月28日12時～ USA

小泉会長

都合で早く変えられる役員もいるので、先に例会の件について打ち合わせをしておきたい。今回の例会出席者は64名となっている。その中には新入会員やかなり久しぶりに例会に出て来られる会員もいる。初めての方にも、久しぶりの方にも次の例会にも参加してもらえるように、しっかりと設営をしてもらいたい。また現在まだ出欠の連絡が来ていない会員については、個人的に連絡を取って出席奨励をしてもらいたい。

まずは例会の式次第について、司会は今まで副会長がしていたが、例会の運営上事務局長がしてはどうか？横山事務局長が欠席の場合は和田事務局長補佐が務めることで良いか？

異議なし

高橋委員長

今までは会長挨拶の後乾杯、その後懇談し懇談中に各委員会報告があった。セレモニーとしてきっちりするのであれば、まず直前会長が開会宣言をし、その後会長挨拶、各委員会報告を先に全部行う方が良いのではないかと？

小泉会長

今回は副会長も挨拶をしてもらいたい。

寺田副委員長

開会から懇談までが長すぎると、聞いている方は疲れてくる。委員会報告は懇談の途中で良いのではないかと？

小泉会長

では今回の例会は副会長の挨拶もあるので、先に乾杯をして懇談の途中で各委員会報告をしてもらうということにしたい。開会宣言は事務局長が司会の流れで行い、直前会長が乾杯の挨拶をしてもらうのはどうか？事務局長は島副会長のビデオレターの件も梅岡委員長に画確認しておいてほしい。また今回の各委員会報告については、役員全員が登壇の上委員会ごとに前に出て挨拶をし、最後に会長から一言挨拶する形にしたいがどうか？

全員異議なし。

小泉会長

各委員会報告の後、慶弔、新入会員挨拶の流れでいきたい。
それから全員がいるうちに会則変更について確認しておきたい。

会則変更案配布

横山事務局長

変更点について簡単に説明しておきたい。今回の会則で「会員の除名」と「会則の変更」は役員会決議事項となる。総会決議にすると年一回しかない総会では運営上問題が多い。役員会決議についてはHP上で公開すると共に、各月の例会で報告することとした。会員には役員会決議事項に対する修正・廃止の動議を例会にて行えるようにしている。第27条に動議があった場合の例会の定足数について新たに条文を追加した。例会内で動議があった際、定足数満たない場合は、次の例会で定足数を満たした上で決議することとなることを確認しておいてもらいたい。
会員に対しては変更案をHP上に公開することで報告とさせていただきたい。

小泉会長

役員会の決議事項はHP上で公開する。議事録については任意となっているが掲載していきたくと考えている。

島副会長

役員会の権限はかなり大きいものになる。会則の変更を役員会のみで行えるということは、例えば特定の政治家を応援するというのも理論上可能になる。そういったことは無いと思うが、様々な事柄に十分注意して運営していかなければならないと思う。

小泉会長

それでは次に各委員会より例会で報告する事業計画の説明をしてもらいたい。事前に内容を役員会全体で共有し、お互いが指摘し合えるように運営していきたいと考えている。事前に連絡があったと思うが、今回交流委員会は欠席となっている。先週土曜日に、委員長と副委員長と三人で打ち合わせをしている。内容について代わりに説明をさせてもらう。実はどの事業よりも出席者が多いのが例会である。特別な事業よりも例会を活用して交流を図っていく方が効率的だと思う。例えばくじ引きで例会の席を決定し、議題を出してそのテーブルでディスカッションをしてもらう。その後テーブル毎に結果を発表してもらうのはどうか？そうすれば少なくとも最初の一時間程度は今まで交流の少なかった会員とも交流が生まれるのではないか？9月例会には実施できるようにしていきたい。

寺田副委員長

正直例会にあまり出席していない会員の名前を覚えきれていない。各会員の名札を作成してはどうか？

大田委員長

名札は良い案だと思う。首から下げるタイプが良いのではないかな？

全員異議なし

小泉会長

交流委員会としては既存事業である BBQ・カート・ゴルフは継続していく。その他に旅行を企画したいが、単独で企画しても中々スケジュールを合わせるのが難しい。そこで徳島創生塾のときに同じ宿泊施設に泊まって交流する等、正副委員長よりかなり面白いアイデアが出てきている。各委員会、副会長とも連携し新たな交流委員会の形を作っていってほしい。

寺田副委員長

貢献委員会事業計画について説明。

基本的には前回までの役員会で報告した内容でいこうと思っている。家族例会については次の例会で会員の希望を聞くためにアンケートを実施したいと思う。

後は例年通り「車いす寄贈事業」と「献血事業」を実施する。献血は年1回とする。

また他団体の献血事業を随時案内していくようにする。

車いす寄贈に関しては社協のHPから検索して寄贈先を選定したい。

森本副委員長

献血に関して具体的な目標人数は設定しているのか？

小泉会長

年一回の献血事業であれば過去最高人数は必ず達成する。役員の協力をお願いしたい。

後藤副会長

過去70名を超えたことはない。確か65名が最高だったと記憶している。

献血車一台で一日採血できる上限の人数が70名だったと思う。目標は上限の70名にしてはどうか？

寺田副委員長

それでは今回は70名を目標人数と設定したい。冬季は血液が不足するそうなので、献血事業は2月開催予定とする。場所は70名を目標とすると広い駐車場が必要となるため、マルナカ等ショッピングモールも視野に入れて選定したいと思う。

和田副委員長

連携委員会事業計画について説明。

前回役員会で議題にあった他団体とのディスカッションについてだが、いきなり他団体と開催するのではなく、一度四究会の中で開催してみようと考えている。そうすることで会員間の交流も生まれ相乗効果が期待できる。前回までの話では、四究会は異業種の集まりであるため、そういった特色のある四究会が何かできることは無いか？というものを投げかけて、それに対して求めてきてくれる団体への事業を展開していくことを考えている。例えば「営業部女子課」という女性の営業職従事しているメンバーで構成している団体がある。四究会は現在男性の会員のみで構成されているため、女性だけの団体と連携していくのも面白いのではないか？

次に阿波踊り事業について、豆絞りは例年通り(株)オリジナルで作成する旨確認。

予算についても例年通りの使途となる。今年からは会員の参加費は無料。家族参加も可とし、女性2000円、子供1000円の参加費を徴収する。浴衣のレンタル費は例年通り5000円とする。

森本副委員長

参加費を今年度から無料にした理由は参加者を増やしたいという意図から無料化したのか？またクリーニング費用は事務局から建て替えて払い、後から会員に請求するよりは、先に会員から徴収したほうが手間が省けて良いのではないか？

和田副委員長

例年予算計上していたが、会員からの参加費収入で支出を賄っていたので、実際予算を使っていないことになっていた。こういった経緯から今年度は会員に関しては参加費無料とした。クリーニングに関しては、一括でされる場合は先にクリーニング代を徴収するようにする。個人でクリーニングに出す方は個別に出してもらうことにする。

発展委員会

事業計画及び報告

HPは常に更新している。役員会議事録、会長コメント、ブログも随時掲載している。

各員会事業については委員長が責任を持ってコメントを送っていただきたい。情報は時間が経つと新鮮さがなくなるので、早期掲載のために協力をお願いしたい。

次に名刺の件で、前回会員分の名刺を40枚、役員の名刺は100枚作成することになっ

ている。後はデザインを決定しなければならない。できれば7月の例会時に会員に配布したいと考えている。後は四究会フェイスブックページに関して知名度向上の為に「いいね」を増やしたい。現在377だが1年後には1000にしたいと考えている。これは会員がリクエストを出せば簡単に増やせる。ページを閲覧してくれる人が増えれば、四究会の知名度も向上する。1000を目指したいのでご協力をお願いしたい。

次に名札の件だが、長期に使うのであれば、プラスチック製の頑丈なものでも良いと思う。若しくは名刺を差し込んで首から下げるタイプのものもあるがどうか？

首から下げて名刺を差し込んで使用する物に決定。予算は会長決済とする旨確認。

高橋委員長

次に会員拡大について、次の例会から司会は事務局長が行うこととなった。例会毎に事務局長から拡大目標数と拡大会員数、現在会員数の報告をしてもらいたい。現在の会員数83名となっている。これについてもご協力をお願いする。

和田副委員長

会員拡大目標数100名、拡大会員数12名、現在会員数83名となっている。

小泉会長

良い人がいれば積極的に勧誘をしてもらいたい。ご協力をお願いする。

大田委員長

徳島創生塾事業説明

四究会、JC、YEG、中小企業家同友会など地域の他団体にも積極的に声をかけ、東京開催時には国家公務員や国会議員の他、東京をはじめ県外で活躍されている徳島県出身者にも幅広く参加してもらおう。また、徳島創生の実効性を担保するため徳島開催時には議題により国会議員や県議会議員、市町村議員、担当部局の方にも参加してもらえよう努める。

また今までの参加者も含めリスト化し蓄積していく。

次に徳島創生塾準備委員会を開催したい。8月3日に予定されている公務員側との打ち合わせまでの開催を予定する。今回の打ち合わせでは今まで東京川の幹事であった多田さんが異動になったため幹事を退かれる。今度新しく幹事になっていただく、大島さん、小林さんへの引継ぎ式と多田さんの慰労会も併せて開催する。その会に、ある程度具田的な案を持っていきたいので、準備委員会の事前打ち合わせを早期に開催できればと思う。創生塾準備委員会は開催が役員会で承認され次第、四究会会員及び各団体カウンターパートに意見アンケートを実施する。更に例会にてアンケートを実施し創生塾準備委員会にて審議する。当会の趣旨は東京開催や徳島開催をただ漠然と迎えるのではなく、具体的な目的を持

って徳島創生塾に臨むために実施する。

打ち合わせでは「徳島創生塾で何をするのか？」というところを明確にしていきたい。

島副会長

私は創生塾を立ち上げに携わっていないので、どういった経緯で始まったのか教えてもらいたい。

森本副委員長

四究会10周年の時に何か記念事業をやろうという発案で構想を始め、11年目で立ち上げた。徳島出身の国家公務員の方と地方創生の為意見交換を行う趣旨で始めた。初めは東京開催のみだったが、現在は東京、徳島両方で開催するようになった。最低でも10年間は継続することを目標とし、現在三期目。二年間で東京4回、徳島2回の合計6回。次回が7回目の開催となる。今までは講師を招いて開催したこともあれば、懇親会のみの場合もあり、明確な決まりは現在のところはない。

大田委員長

創生塾にはそれぞれの目的があって良いと思うし、目的を一つに絞るべきではないと考えている。議題例には5つ挙げているが、どれが良いかを役員会等で相談していきたい。

島副会長

参加者は同年代がほとんどなのか？

大田委員長

そんなことはない。かなり幅広い年代の方が参加してくれている。

島副会長

それだけのメンバーをどうやって集めたのか？

青木委員

東京の国家公務員の徳島会という会があり、その会から声掛けをしてもらって集めたのがきっかけになっている。

大田委員長

準備委員会の事前打ち合わせを行いたいがこの点について、役員会の同意をもらいたい。開催に異議はないか？

全員異議なし

高橋委員長

第5回役員会とし議題を創生塾の事前打ち合わせのみでも良いのではないかと委員長が必要と考えているのであれば、会長に申請し会長が招集すれば役員会は開催できる。準備をしっかりと進めていく為にも、役員会として開催し出席率を高め、できる限り多くの役員で十分に議論するべきだと考える。

大田委員長

それでは事前打ち合わせを第5回役員会とし、7月20日を第一候補として案内を流さしてもらおう。出席をお願いする。

次に東京開催事前準備として、役員会での決定事項や8月3日のヒアリング等の結果を四研究会名簿と共に事前に公務員側へ送りたい。次に早期に公務員側の出席予定者のリストを頂き、四研究会役員及びJC、YEG等他団体カウンターパート、県外在住者に開示し参加者を募る。話をしたい内容や面談希望省庁を受付、内容を先方に事前に伝えたくて席次に配慮する。こちらから送る名簿に関しては、出身中学、高校、大学の学歴情報を掲載することで話題が広がる可能性もある。また会社名とある程度の業務内容を記載し、送りたいと考えている。その名簿の作成は事務局でお願いしたい。

小泉会長

議題を設けることは非常に意味があると思う。来ていただけるのは国家公務員。いうなれば、その道のエキスパートの方々に内容の薄い質問をしては失礼にあたる場合もある。例えば「徳島に消費者庁は必要か？」など各省庁の垣根を超えた議論を交わすなど、せっかく開催するのであれば、内容は吟味しなければならないと思う。国家公務員の方も地元の生の意見を欲しているところはあると思うので、価値のある議論、意見交換となるよう設営してもらいたい。

大田委員長

次の役員会でその辺りの事もしっかりと議論していきたい。

開催地は徳島1～2回程度、東京2回程度の開催を検討している。東京での会場は永田町の憲政記念会館を候補として検討中。非常に人気が高い会場なので抑えられない場合は違う場所で再検討する。予算は50,000円(都内会場の相場)×2回=100,000円を計上。その他の費用が発生する場合は補正予算を役員会に提示する。会費は5,000～6,000円程度を考えている。

創生塾には大儀と個別の目的があることを参加者全員が理解し、お互いを尊重しあい、参加するすべての方が次回も来たい、他の人も誘ってみたいと思っただけの創生塾にし

ていきたい。

青木委員

先日の委員会でも話題に上がったが、創生塾として一つ大きな事業をやってみてもいいのではないか？

大田委員長

事業としてコンスタントに政策提言していくような事業も良いかと思っている。

小泉会長

あえて苦言を呈するなら、創生塾は第一回目が一番良かった。その後はそこで出来た人脈を繋ぎとめる為に開催していたような節があったように感じる。今後は参加するすべての人が新たな人脈ができたり、新たな情報が入手できたりするなど、得る物の多い創生塾にしていてもらいたいと思う。創生塾は四究会が主催しているが、四究会とは別動隊なので、独自のルールがあっても良いと思う。徳島出身者から徳島にゆかりのある人にまで門戸を広げ多くの方に参加してもらえるような環境を整えていかなければならない。現在きていただいている国家公務員の方の後輩や部下など国家公務員の方は徳島出身にこだわる必要もないのではないかと考えている。